

平成23年度

学校自己評価表

学校運営実施報告			
学校運営方針		単位制による定時制・通信制課程の利点を生かし、自己発見と自己実現を指導・支援する教育活動を実践する。この方針のもと、 ア 自他を尊重する精神を涵養し、規範意識と社会性を育む、 イ 生徒理解、進路実現へ向けて職員相互の連携を一層推進する、を全体目標とする。	
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標
[成果] 多様な入学動機や学習歴を持ち、様々な問題を抱えている生徒の実態を把握し、一人一人に応じた支援を進め、生徒自身が自主的、計画的に学習をするよう適切な指導を行った。ハローワーク等と連携して進路指導の充実を図った。 [課題] 一人でも多くの生徒が単位修得と卒業ができるように、通信制の柔軟なシステムを生かした教育を継続し推進していくことが必要である。 規範意識を醸成し、部活動やボランティア活動への参加を促し、学校生活や社会生活をより良いものにしていくための指導を充実させることが必要である。 職業観・勤労観を育成し、社会の中で自己実現を促していくための指導の充実が必要である。	単位修得の支援体制の整備 ・基礎学力の定着	・スクーリング・報告課題の添削指導の充実。 ・スクーリング日以外の生徒への学習支援のための個人指導の充実。 ・平均単位修得率55%以上、必履修科目などの1年次科目の単位修得率45%以上の達成。 ・卒業生270人以上の達成。	
	豊かな心を育む教育の充実 ・規範意識の醸成 ・自律性の育成と全体規律の維持 ・きめ細かな教育相談の充実	・学校行事への積極的な参加を促し、担任や友人との関係づくりを促す。 ・教育相談や健康教育の充実。 ・校地・校舎内における禁煙指導の実施。 ・外履き・内履きの区別の指導及び指定シューズ着用の徹底。 ・貴重品等の自己管理の指導。	
	キャリア教育の充実 ・社会人として身に付けておかなければならない諸能力の育成	・進路指導等の行事を精選充実させ、定期的かつ効果的・適切な面談・指導等で、生徒の興味・関心・適正を把握して、職業観・勤労観を育成し、進路目標を明確にさせ進路目標達成のための支援を図る。 ・進路希望の8割以上の達成。	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
単位修得の支援体制の整備 (基礎学力の定着)	授業および報告課題の内容・指導方法の改善を図る。	生徒、保護者に授業や学校生活に関するアンケートを行い、その結果を改善の参考として利用する。 授業や報告課題、添削に対する生徒の意見聴取を行い、授業の内容や方法、報告課題の内容や添削方法の工夫と改善を図る。	B B
	生徒一人ひとりが自己の学習目標を達成し、単位修得や卒業につながるような継続的な指導をする。	受講登録時に、生徒一人ひとりの興味、関心、進路希望、卒業条件等に配慮した履修指導を行う。 スクーリング出席や報告課題提出の状況を定期的に確認し、生徒自身が自主的、計画的に学習を進めることができるように適切な学習指導を行う。	B B
		生徒一人ひとりに寄り添った指導を念頭に置きながら、単位修得率や卒業生数などの一層の向上を図る。平均単位修得率55%以上、1年次科目の単位修得率45%以上、卒業生数270人以上を目標とする。	B
		学校行事や学校生活、学習内容などを、よりの確に生徒および保護者に知らせるため、月報の内容の充実を図る。	B
	生徒の学習意欲を引き出し、基礎学力の向上を図る。	生徒が提出する報告課題に対して、きめ細かな添削指導を行い、生徒の自ら学ぶ意欲を引き出す。	B B
		学習内容の理解が不十分な生徒や質問のある生徒に対して、スクーリング以外の日においても積極的に登校することを呼びかけ、指導する。	B

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価			
豊かな心を育む教育の充実 (規範意識の醸成、自律性の育成と全体規律の維持、きめ細かな教育相談の充実)	学校内外における生活マナーの向上を図る。	月報、生徒指導部だより（毎月報に掲載）、「学習の手引き」、掲示物等で学校内外の生活マナーの向上と交通安全意識の高揚を目指す。	B	B	B	
		全教員でスクーリング日の校舎内および校地内の巡回指導を行う。	A			
		警察等の外部機関と連携を取りながら適切な指導を行う。	B			
	未成年者の禁煙指導の充実に努める。	巡回による校舎内および校地内における禁煙指導を徹底する。	C	C	C	
		薬物乱用防止講話を実施し、保護者に対しても協力を働きかける。	B			
	学校行事や部活動への積極的な参加を促す。	異年齢集団の一員としての自覚を持ち、協力的な態度を育てる。部活動（加入生徒数100名以上）、運動会（参加生徒数230名以上）、文化祭（参加生徒数100名以上）、クリスマス会（参加生徒数25名以上）、生活体験発表会等の行事に積極的に参加させることで仲間づくりを促し自主性、社会性を養う。	C	C	C	
		部活動の在り方を見直し、適切な部を設置する。	B			
		生徒理解の充実と生徒の自己実現を援助する。	B	B	B	
	安心、安全な学習環境を整える。	生徒理解とそれに関わる校内研修（年2回）を実施し、生徒の悩みに傾聴し、受容的・共感的な姿勢で教育相談を行う。「生徒理解のためのアンケート」の実施や「中高連携シート」、「連携シート」、「生徒情報記録簿」等を利用して生徒理解に努める。	B			
		単位制活性化相談員、養護教諭、外部機関との連携を図りながら、さまざまな問題・悩み・困難を抱える生徒を支援する。	B			
		個別面談（年2回）や三者面談（随時）、「自立・就労」に向けた面談（5月以降随時）を実施し、生徒に自己理解を深めさせるとともに、生徒の自己実現を援助する。	B			
		さまざまな問題を抱えた生徒の保護者と、より良い連携を図るために保護者との個別懇談（年2回）、保護者情報交換会（年2回）を実施し、保護者と生徒に対する具体的な支援の方法を見つける。	B			
毎月「教育相談だより」を発行する。		A				
健康教育の充実を図る。	不審者対策指導として、校内履き（指定シューズ）着用を徹底させる。私物および貴重品等は各自の責任でしっかりと管理させる。	B	B	B		
	校舎内外の安全点検を定期的に行い、速やかな異常の発見に努め、早期改善を図るとともに、校舎内外の清掃や美化に心がける。	B				
	救命法講習会を実施し、救命意識を高める。	A				
キャリア教育の充実 (社会人として身に付けておかなければならない諸能力の育成)	生徒健康診断や養護教諭と連携を密にして、集会、HR等で生徒の健康管理意識の向上に努める。	B	B			
	年3回「保健だより」を発行し、または必要に応じた文書を発行する。	B				
	入学時より卒業後の進路を考える機会を設け、より多くの生徒が卒業後の目標を設定できるように指導する。	B	B	B		
	進路希望状況調査を行い、生徒の実態を把握する。	B				
	キャリアガイダンスを適時実施し、進学や就職の意義を正しく理解させる。「進路だより」を毎月発行し、進学・就職に必要な情報を生徒及び保護者に発信する。	B				
生徒の進路希望を達成させる環境を整備する。	「進路だより」を毎月発行し、進学・就職に必要な情報を生徒及び保護者に発信する。	A				
	同じ環境で高校生活を送り、進学・就職した卒業生の貴重な合格体験記を月報等で紹介し、受験勉強・高校生活の参考になるようにする。	A				
	生徒一人ひとりの希望に応じた進路相談、面接指導、小論文指導等を実施する。	B	B			
	学校外での進路ガイダンスやオープンキャンパス・学校説明会・職場見学会への参加を促す。	A				
	地域の就労支援機関と連携し、就職に結びつくように支援する。	B				
	各ハローワーク主催の合同説明会に出席し、各事業所に対して、通信制の生徒への理解を働きかける。	B				
		B				
成果	○ 平均単位修得率は53.3%で、目標としていた55%には及ばなかったが、昨年度の52.1%をやや上回る結果となった。卒業生数は307名（昨年度288名）で、目標としていた270名を上回った。また、1年次科目（国語総合、			総合評価 B		

世界史B、現代社会、数学Ⅰ、体育(3単位)、保健前半、音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰ、英語Ⅰ)の平均単位修得率は43.6%で、目標の45%には達しなかったものの、昨年度の39.4%を上回る結果となった。

- クラス通信や月報に、その時期に応じた注意やアドバイスを掲載するなど、学習活動に関する注意喚起をきめ細かく継続的に行った。
- 本校通信制生徒用Webページの「MYPAGE」、「携帯MYPAGE」の改善を行い、生徒自身が学習状況をより把握しやすくなるよう充実を図った。
  
- 生徒の自己実現に向けて、RISE、JOIN、病院等と連携し、特別支援教育の一端を担った。その際、生徒情報の取りまとめに工夫をし、入学後の早期対応を図るよう努めた。
  
- スクーリング時の巡回では、巡回用メモ用紙を活用して、次の担当者へ申し送り出来るよう工夫した。
- ボランティア活動の一環として、昨年度より行っている活動を前期にも設け、加えて昨年度よりも生徒が積極的に参加し、活動している姿が見られた。
- 喫煙指導に関しては視覚的に伝えられるように表示を工夫した。
- 生徒会行事では執行部が積極的に取り組み、成果を上げており、新しく加えた「新入生歓迎会」も有意義であった。
  
- 各学年との連携がうまくいったため、HR・放課後に行ったキャリアガイダンスの開催情報が生徒にしっかりと伝わり、参加者は全体的に昨年度より増えた。(進路ガイダンス：昨年度20名、今年度25名 就職ガイダンス：昨年度35名、今年度72名 進学ガイダンス：昨年度26名、今年度34名)
- キャリアガイダンスの開催時期を昨年度より早めたことにより、早い時期からの生徒の進路に対する意識の向上につながった。
- 進学の面接指導では、今年度より情報を事前に収集することに努め、より志望校に合わせた面接を行うことができた。
- 県内各地域のハローワークと密に連絡を取り合い、連携して就職指導を行うことができた。
- 進路相談員と連携し、より実践的な就職の面接指導を行うことができた。

#### 【評価の目安】

- |              |                         |
|--------------|-------------------------|
| A：目標を上回っている。 | B：概ね目標に達している。           |
| C：目標に達していない。 | D：目標を大きく下回り、著しく低い実績である。 |

平成23年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
基礎学力の定着、通定併修制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単位修得率の向上にともない、学習活動をしている生徒数が増加傾向にあり、生徒の多様性も増している。その中で、可能な限り生徒一人ひとりに寄り添い、生徒自身の学びを実現できるよう指導を行い、全体として単位修得率や卒業生数などの向上を図っていきたい。</li> <li>○ スクーリング出席や報告課題提出の状況を定期的を確認しながら、生徒の状況や時期に応じて指導やアドバイスを行い、最終的には生徒自身が学習状況を把握しながら自主的・計画的に学習を進めることができるように指導していく必要がある。</li> </ul>
自律性の育成と全体の規律の維持きめ細かな教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員全員によるスクーリング時の巡回及び喫煙者等への指導、加えて視覚的に確認出来るように掲示物も工夫しているが、校地内での喫煙については昨年度を上回ってしまった。特に駐車場車内での件数が目立つことから、校地内のポイントを中心に更に伝達方法を工夫し、生徒全体に呼びかけ学校内の規律を保っていきたい。</li> <li>○ 昨年度末に部活動の再編成をしたところであるが、一部の部活動を除いては全体の様子としてはなかなか活性化されていない現状にある。今年度活躍した生徒の成果を積極的に紹介し、全体が活性化されるよう進めたい。</li> <li>○ 全体的に概ね良好と評価された項目については、今後も継続して努め、さらに成果が上がるようにしていきたい。</li> </ul>
社会人として身に付けておかなければならない諸能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内のキャリアガイダンス及び外部の進学相談会や就職合同面接会への情報が生徒に伝わるように、月報の「進路だより」の欄を有効に活用する。</li> <li>○ 校内のキャリアガイダンスの時期・内容を、より生徒の実態に合わせる。</li> <li>○ 不合格・不採用となった生徒が進路目標をあきらめることのないよう、指導を継続する。</li> </ul>